

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会医療法人福島厚生会
施設名	すばる保育園
報告者（役職）	大内 すみ子（園長）
住所・連絡先	福島県福島市北沢又成畑6-1
	☎ 024-557-1798
	E-mail subaru@daiichihosp.jp

○タイトル（保育計画）

心と体を育てる園庭遊び

○主な助成備品

築山、砂場、グランドハウス

### 1. 保育計画策定の目的

福島県は震災時に放射線の心配がありました。そんな中、母体である病院、社会医療法人 福島厚生会理事長の「子どもの健康と体力増進をはかり、安心して保護者様が働ける環境を」との思いから園舎を新設、広いスペースのプレイコートの中に屋内砂場を設置し、2017年7月に福島市の認可を頂き、地域型事業所内保育園としてスタートさせて頂きました。安心して遊び、体力増進に繋がるよう同法人である健康創造館の協力の下、体操教室も行っています。放射線の心配がなくなり、戸外遊びや、散歩に出掛ける機会も多くなりましたが、散歩では疲れやすく途中で座り込む園児の姿がみられ、体力の減退を感じられました。そこで戸外で楽しみながら遊び、体力作りにも役立てられるような遊具を考え模索する中で、学びの場である園庭にはすべり台とスイングバイキングのみの遊具しかなく、体力増進、そして園の保育目標でもある「健康な子ども、意欲のある子ども、思いやりのある子ども」を育てる為、園庭の充実を図る事が大切と考えていた時に助成金のことを知り申請させていただきました。

### 2. 具体的な実施内容

#### 【築山】

築山を作るにあたり、1歳児から5歳児までどの年齢でも楽しみながら遊べ、体力作りが出来る様、車のタイヤを埋め込んだ階段、土管を埋め込みトンネルをつくり、ロープを取り付け伝って登り降り出来るよう配慮しました。



年長児は斜面を登り土管を埋め込んだ築山からジャンプするなどダイナミックな遊びに発展、年少児はタイヤの階段を登り、またはロープを伝い、お尻で滑って降りる事を覚え失敗しながら何度もチャレンジ。登り切った時、一人で降りた時には笑顔になり達成感を味わっている様子が見られました。土管の長いトンネルを怖がっていた1歳児でもにこにこ笑顔でくぐり抜け楽しんでいきます。



### 【砂場】

場所が決まると、屋内砂場で使用していた抗菌砂を園庭に運び出し、不足分は業者さんに依頼し手配して頂きました。少しずつ出来ていく工程を見て子どもたちの期待も膨らみ「おすなば？」と毎日保育者に確認し、楽しみにしていました。待ちに待った砂場が出来ると準備した砂場の玩具で型抜きをしたり、水を入れてトンネル作り、大人気の砂場は戸外遊びになると砂が見えなくなるほどの盛況振りです。





### 【グランドハウス】

赤いドアと赤い窓のハウスは子どもたちの夢のお家であり、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、弟と役割を決め異年齢での遊びに発展、窓やキッチンを利用し、お客様と店員になりお店屋さんごっこ、バケツいっぱいに入れた砂を持ち運びご馳走作りなど、遊びの幅が広がりました。



### 3. その成果と評価

今までは園庭に出ても、鬼ごっこやかけっこなど走って遊ぶことが殆どでした。築山が出来てからは年長児は勿論、1、2歳児でもロープを使って、またタイヤを埋め込んだ階段を一步一步ゆっくり登るなど自分のペースで楽しみ、上りきった時には達成感を味わったり、トンネルくぐりでも体全体を使い遊ぶことで、少しずつ体力が付き、バランス感覚も養われ、遊びの幅が広がりました。

また1、2歳時でも散歩車での散歩ではなく、自分の足でしっかり歩く散歩になり、園まで歩いて戻れるようにもなりました。砂場やグランドハウスでの遊びでは年長児が小さい子どもの面倒を見たり、独自のルールを作って遊ぶなど「思いやり」や「やさしさ」「創造力」も養われ異年齢での遊びも充実したように感じています。

やっと園庭に必要な最低限かもしれませんが、遊具が増えたことで子ども達の笑顔も増え、園庭遊びの日が増えたことを嬉しく思います。本当に有難うございました。



### 4. 今後の課題と展望

砂場は十分なスペースを取ることが出来なかったため、もう少しスペースを広げてもっとたくさんの園児が楽しんで遊べるようにすること。また発達にあった遊びの構築ができる遊具等を考え、今はプランター栽培で食育をかねた夏野菜を育てていますが、花壇を作り四季の草花を育て、自然に触れる機会を多く持てる園庭づくりを進めて参りたいと考えています。

以上